

平成28年度 請負事業体等における休業4日以上 の災害発生状況と対策

NO. 1

番号	署等	発生日時 経験年数	性別	年齢	事業	休業見込	従事作業	災害の概要	防止対策
1	飛驒	H28.5.20 (金) 13:20頃 5年	男	34	治山	数週間の 入院加療	通勤経路の整備	歩道上の灌木を切断しようとしたところ、チェーンソーの刃先が灌木に当たりキックバックを起こし、チェーンソーのガイドバーが被災者の額(前頭部)に当たり受災した。	ガイドバーの先端部分上側はキックバックを起こしやすい箇所であるため、チェーンソーの取扱に十分注意する。
2	東信	H28.7.5 (火) 14:20頃 2年	男	35	造林	1週間の 入院	支障木の整理 (保育間伐活用型)	作業道脇に伐倒してある支障木に挟まれ、弓なりになっているサワグルミ(元口径12cm、長10m)の状態を確認するため、近づいたところ、突然サワグルミ(元口から2m付近)が折れて跳ね上がり、梢端側が被災者の(前頭部)に当たり受災した。	伐倒木に押さえられ弓なりになっている枝や灌木は、不用意に近寄ると跳ね上がる危険があるので、 ①フェイスガード等保護具の完全着用する。 ②弓なり木等の入念な状況確認を行う。 ③反発の恐れがない側から近寄る等慎重な行動をとる。
3	木曾	H28.9.23 (金) 10:30頃 3年	男	27	生産	約1週間	伐倒作業	ナラのかかり木を元玉切りで外そうとしたが外れないため、上方のヒノキを浴びせ倒したところ、ナラの枝にかかった状態となり、更に別のヒノキ3本を順次、浴びせ倒したところ、ヒノキはナラの枝から外れたが、ナラはかかり木のままの状態であったが、ナラの枝を切断すると外れると判断し、チェーンソーで切り込みを入れたところ、枝が裂けると同時にチェーンソーが挟まれ、咄嗟に逃げようとしたがバランスを崩し傾斜約37度の斜面を約15m滑落し受災した。	かかり木の処理作業における禁止事項の遵守及び安全な作業方法の徹底。 禁止事項 ①かかっている木の伐倒 ②他の立木の投げ倒し(浴びせ倒し) ③かかっている木の元玉切り ④かかっている木の肩担ぎ ⑤かかり木の枝切り
4	東濃	H28.10.4 (火) 9:30頃 2年	男	34	治山	約1ヶ月	山腹工仮設工 (落石防止用 施設設置作 業)	チルホールとワイヤーを連結させようとしたところ、引き寄せた反動で吊り荷が動いたため、バランスを崩し、乗っていた大型土嚢の上から約4.2m落下し、更に斜面を約18m転落し受災した。	ワイヤー等、接続作業を行う場合は、 ①吊り荷を一時的に着地、安定させてから作業する。 ②作業時にワイヤーに張力がかからないよう、十分な長さのワイヤーを使用する。 ③事前に作業手順を確認し、作業員間の十分な連携を図る。

平成28年度 請負事業体等における休業4日以上 の災害発生状況と対策

NO. 2

番号	署等	発生日時 経験年数	性別	年齢	事業	休業見込	従事作業	災害の概要	防止対策
5	南信	H28.10.14 (金) 14:40頃 10年	男	54	生産	不明	集材作業	ウインチでワイヤーを巻き上げたところ、集材木(玉切りしたヒノキ、末口径 14cm、長さ約 5m)が林地残材の木口(元口径 14cm)に引っかかり、その木口を支点に集材木が退避していた被害者(荷掛者)の方向に振られ、被災者の右足下腿部に当たり受災した。	荷掛作業における労働安全の確保については、 ①運転者と荷掛者との確実な連絡合図を行う。 ②合図を送る前に斜面上方の安全な場所に必ず退避する。 ③退避場所は、立木のかげなど安全な場所を選定する。 ④安全な場所に退避し、回りの安全を確認した上で運転者に合図を送る。
6	中 信	H28.10.27 (木) 14:00頃 18年	男	38	治山	約4週間の入院	鋼製枠谷止工 (足場解体作業)	廻排水施設の解体作業中に鋼製枠の上から廻排水施設の足場に移ろうとして、転落防止のために設置した単管(手すり)に手を掛けたところ、片側の固定金具が緩められていたため、単管が動き、バランスを崩して約4mの高さから鋼製枠背面の大型土のうの上に墜落して受災した。	高所作業及び足場等の解体作業については、 ①的確な墜落防止措置を講ずる。 ②解体作業手順の徹底を図る。 ③作業者間の確実な情報共有と連携を図る。